

# 阪神大震災におけるマスメディアの役割

遠 藤 英 樹

はじめに

- I マスメディアにおける震災報道の初動体制
- II 震災報道の変容－復旧から復興へ－
- III マスメディアによる復興「物語」
  - －〈被災者〉をめぐる「物語」の構造分析－
- IV マスメディアにおける「物語」のステレオタイプ（定型）化
  - －震災を経験した人々の想いとゾレー

むすびにかえて

- －「心」の復興に向けた想像力豊かな「物語」の創出－

< 附録 1 ～ 6 >

はじめに

本稿では、阪神大震災に対してマスメディアが果たすべき役割を検討する。すなわち、ここで扱われるのは、マスメディアにおけるクライシス・コントロールの問題である。

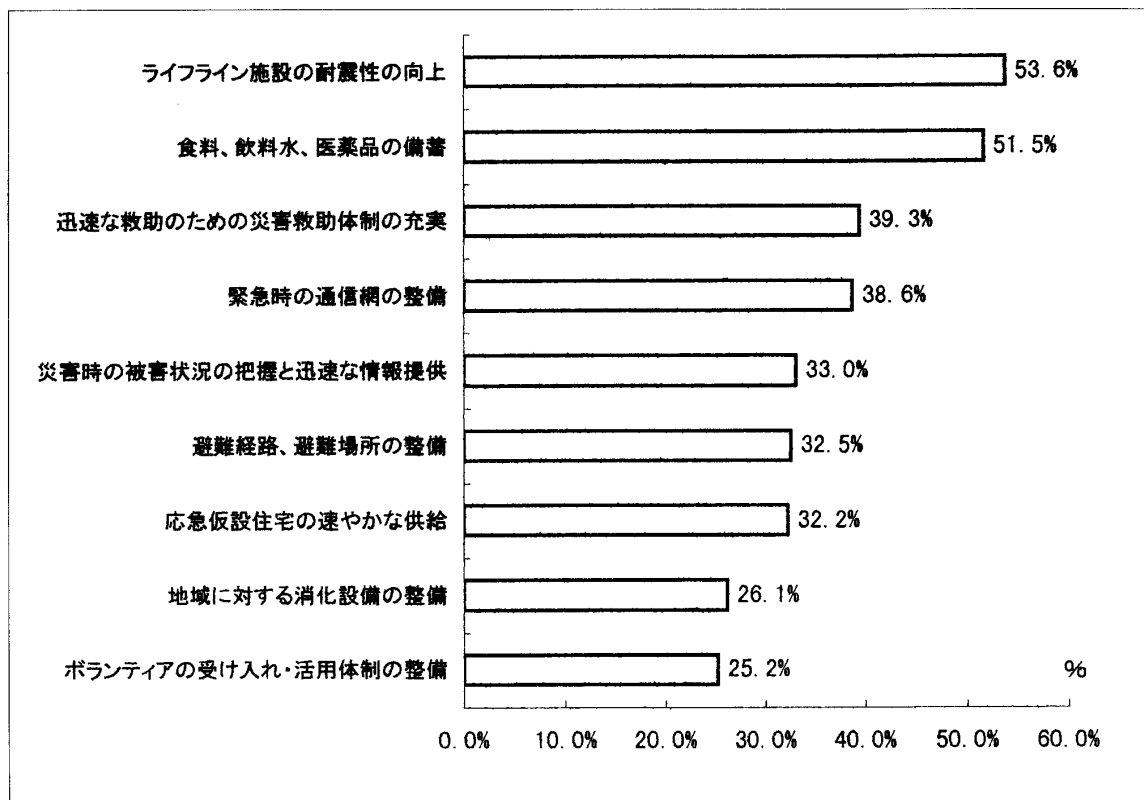
だが、そもそも何をもって「クライシス・コントロール」と言うのだろうか。それは、家屋やビルの倒壊、ライフラインの断絶等によって生じる被害を最小限に食い止め、できるだけ速やかに復旧していくといったことを表すにすぎないのだろうか。もちろん、これらを抜きにしたクライシス・コントロールを考えることは難しい。しかしながら、クライシス・コントロールとはそれにとどまるものではなく、むしろ災害によって傷ついた人々の「心」の復興までを考慮に入れた長期的視点に立ったものではないだろうか。

そこで以下では、このような長期的視点に立って阪神大震災時におけるマスメディアのクライシス・コントロールのあり方について考察を加えていこうと思う。その際、まず阪神大震災が発生した直後のマスメディアの初動体制を振り返り検討

する。次に時間の経過とともに、マスメディアの震災報道がどのように変容していったのかを考え、その変容過程をふまえ、「心」の復興のためにマスメディアが今後果していくべき役割を明らかにしたいと思う。

## I マスメディアにおける震災報道の初動体制

平成7（1995）年9月に総理府が実施した「防災に関する世論調査」によれば、「大地震対策に関する要望」として調査対象者の53.6%が「ライフライン施設の耐震性の向上」を挙げ、また51.5%が「食料、飲料水、医薬品の備蓄」を挙げている。さらに「迅速な救助のための災害救助体制の充実」は39.3%、「緊急時の通信網の整備」は38.6%、「災害時の被害状況の把握と迅速な情報提供」は33.0%となっている。以下それに続いて、「避難経路、避難場所の整備」32.5%、「応急仮設住宅の速やかな供給」32.2%、「地域に対する消火設備の整備」26.1%、「ボランティアの受け入れ・活用体制の整備」25.2%という結果となっている



図表 1 大震災対策に対する要望

資料出典：総理府「防災に関する世論調査」（平成 7 年 9 月）

国土庁編（1996）『平成 8 年版 防災白書』より転載

（図表 1）。

これらの中で特にマスメディアが密接に関わっていくべきは、やはり「災害時の被害状況の把握と速やかな情報提供」であろう。そこで本章では、阪神大震災時の「災害時の被害状況の把握と速やかな情報提供」をめぐるマスメディアの初動体制をもう一度、振り返り検討していくことにする。

そこでまず、図表 2 を見てもらいたい（図表 2）。これは、「初動期の NHK（東京）総合テレビの放送概要」である。

これを見ると NHK テレビは、地震発生後の午前 7 時台には既に、「被災中心地からの局地的被害情報」を報道し得ていることが分かる。例えば、午前 7 時 2 分の段階で神戸放送局内の激しい揺れをスキップバックというシステムで映した生々しい映像を放送している。また午前 7 時 3 分には、大阪中継により東灘・灘・中央区でガスもれがあり、須磨区でマンションが倒壊し火の手が上がっている様子が報じられている。さらにそれに続いて、午前 7 時 5 分には三宮で電柱や家屋が倒壊し

ている映像が届けられ、午前 7 時 10 分には西宮で阪神高速道路の高架橋が落下している様子が報じられているのである（吉井 1996：71-73）。

次に図表 3 も見てもらいたい（図表 3）。これは、「初動期の地元ラジオ各局の主要情報別放送時刻」である。これを見ると、「震源と規模」の情報については各局とも、地震発生後間もない午前 6 時台前半には放送を開始していることが分かる。また「火災発生・延焼」の情報については午前 6 時台後半から 7 時台にかけて、「生き埋め・死者」の情報については午前 7 時台にはほとんどのラジオ局で何らかの報道が行われているのである。特に芦屋に在住するパーソナリティが携帯電話を使って詳しい被害を報告してきた MBS の例に見られるように、ラジオの特性を活かした「被害情報」の把握がなされていたように思われる。

さらに新聞報道について見ても、毎日新聞が本社ヘリを使い、阪神住吉駅近くで横転した電車と付近の火災の様子を午前 8 時 40 分の時点において写真におさめているが、その写真がいちはやく号

段 階	時 刻	情 報 内 容
第 1 段階 〔各地の震度 と地震の規 模、震源〕	5 : 49 5 : 53 6 : 01 6 : 04 6 : 08 6 : 16	東海地方で震度 4 の地震発生 各地の震度（京都、彦根、豊岡は 5） 大阪中継：神戸震度 6 大阪中継：震源とマグニチュード情報 神戸震度 6 取消し 大阪中継：神戸震度 6 確認
第 2 段階 〔周辺被災地 からの被害 情報〕	6 : 18 6 : 20 6 : 35 6 : 38 6 : 39 6 : 43	京都中継：京都の被害（亀岡市で塀倒れる；火災報告なしなど） 大阪中継：交通機関の運行状況、大阪被害（壁はがれ落ち、コン ビニ被害 小）、彦根被害（ケガ人 1 名、インターチェ ンジ閉鎖） 京都中継：京都駅前ガラス散乱、仏像倒れるなど 奈良中継：3 世帯停電、JR・近鉄運転見合せ 大阪中継：和歌山市内の 13 階建てビル縦に亀裂、タイル落ちる 広島中継：山陽自動車道一部通行止め
第 3 段階 〔被災中心地 からの局地 的被害情報〕	6 : 44 7 : 02 7 : 03 7 : 05 7 : 10 7 : 14 7 : 18~27 7 : 37~ 7 : 42 7 : 56 8 : 02	神戸市中央区入江アナのレポート：火の手が 7 カ所、三宮方面 3 カ所、大阪方面 4 カ所 NHK 神戸局内の揺れの様子（スキップ・バック・リコーダー の映像） 大阪中継：東灘、灘、中央区でガスもれ、須磨区でマンション斜 めに倒れる、火の手 7 カ所 大阪中継：三宮の電柱、家屋ペシャンコの生々しい映像 大阪中継：西宮、阪神高速道路高架橋落下。車が下敷き 淡路島と電車中継：民家 14 件倒壊。生き埋め調査中。軽傷 30~40 名 くり返し 大阪中継：大阪火災 10 件。池田市で家屋倒壊、3 人生き埋め、 2 人救出。阪神高速、西宮で真っぶたつ 大阪中継：東灘区深江本町で阪神高速高架橋落下。車 50 台が滑 り落ち、ケガ人多数 神戸中継：NHK 神戸局前から中継 淡路島と電話中継：一宮町で死者 1 名
第 4 段階 〔ヘリからの マクロ映像 情報〕	8 : 14~	ヘリ中継

（注）実際の放送時刻とは多少のズレがあると思われる

図表 2 初動期の NHK（東京）総合テレビの放送概要  
資料出典：吉井（1996）P.72

情報 放送局	震源と 規模	神戸 震度 6	火災発生・延焼		阪神高速 倒壊	生き埋め・死者		初動期の放送の 全般的特徴
			大 阪	神戸・芦屋・西宮		淡路島	神戸・芦屋ほか	
NHK 第一 (大阪)	6:02~03	6:01放送 6:07取消 6:09確認	6:08頃 (住之江)	6:44頃 (7本の煙)	7:05頃 (落下、 車が下 敷き)	7:03頃 (生き埋め らしい) 7:50頃 (1名死亡)	8:03頃 (芦屋で多くの 人が下敷き)	各地方局からの情報を幅 広く収集、多様な情報が 提供されているが、焦点 絞り切れず
ラジオ関西 AM 神戸	6:18	6:18	不 明	6:07頃 (長田方面で火 柱)	不 明	不 明	6:24頃 (住民による救 出活動)	7:25 から長田区に出 動したラジオカーから生々 しい実況を中継
ABC 朝日放送	6:00頃	6:25頃	6:25頃 (数カ所 で火災 発生)	7:20(神戸方面 に煙) 7:24(西宮、大 きな火災) 7:41(芦屋2カ 所)	7:20頃	7:55頃 (1名死亡)	7:04 (池田市) 7:41 (芦屋で20軒以 上)	CM や一般ニュースが 間にかかり入っている
MBS 毎日放送	6:01頃	6:24頃	6:25頃 (阪大豊 中キャン パス)	6:30頃 (武庫川) 7:10 (須磨区と神戸 市内全域)	6:30頃	7:10頃 (生き埋め) 7:37頃 (1名死亡)	6:50(家が完全 につぶれてい る) 7:10頃(死者が 出ているとい う未確認情報) 7:30頃(芦屋 で20軒以上)	芦屋在住のパーソナリティ からの携帯電話によるリ ポートが詳しい被害を説明
OBC ラジオ大阪	不 明	6:36	7:00頃 (住之江)	7:30頃 (芦屋で2カ所)	7:10頃 (橋梁外 れている)	不 明	7:30頃 (芦屋で20軒以 上) 7:45頃 (西宮かなり多 い)	

(出典) (社) 日本民間放送連盟「阪神大震災とラジオ」(1995年8月) / NHK 放送文化研究所「阪神大震災・放送はどう機能したか」(1995年5月) その他

(注) 実際の放送時刻とは多少のズレがあると思われる

図表3 初動期の地元ラジオ各局の主要情報別放送時刻

資料出典：吉井(1996) P.75

外の形で報じられている(図表4)。また読売新聞も本社ヘリを使って、阪神石屋川駅近くで横転した電車と付近の火災の様子を午前8時20分の時点で写真におさめ、それを夕刊で報じているのである。

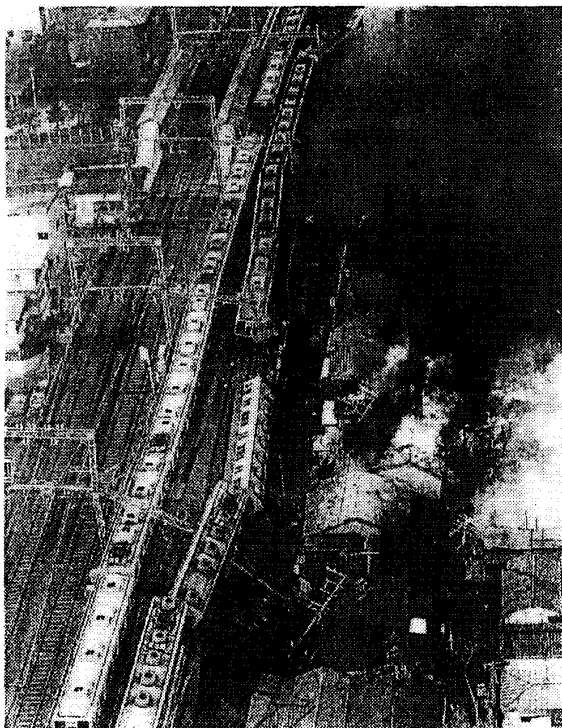
こういったマスメディアの動きに対して、国土庁・官邸、防衛庁・自衛隊、県や市などの公的機関の初動体制は、通信ネットワークの機能マヒと収集方法の未熟さが重なり、かなり遅れたと言われている(吉井1996:54-71)。例えば神戸市の場合、全体状況を把握するためヘリコプターが飛び

立てたのは、震災発生から既に約4時間が経過していた午前9時30分頃のことだったのである。こうしたことから、阪神大震災発生直後におけるマスメディアの初動体制は、国土庁・官邸、防衛庁・自衛隊、県や市などの公的機関のそれと比べてかなり迅速なものであったと考えられるだろう。

このような災害発生直後の「被害情報」は、生死に関わる切迫した情報だと言える。したがって災害時において、いかに迅速かつ確に「被害情報」を伝達していくのかということがマスメディアがまず最初に果たすべき役割となろう。それゆ

# 近畿で大地震

## 淡路島震源 M7.2



阪神電車が横転。民家にも火災が発生した阪神住吉駅付近。17日午前8時40分。本社ヘリから

## 神戸 震度6

十七日午前五時四十分ごろ、近畿地方を中心に、西日本から東海地方にかけての広い範囲で強い地震が発生した。震度6の烈震を記録した兵庫県神戸市や西宮市、淡路島ではビルや民家の倒壊が相次ぎ、高速道路の橋げたも落下するなど多数の死傷者、行方不明者が出ている模様。京都府の東海道路幹線やJ

R 私鉄でレールが曲がり、列車が脱線するなど交通機関は全面的にストップ。兵庫県神戸市や神戸市、大阪市内などで次々に火災が発生、停電や断水、道路の陥没なども各地で起こり、関西の都市は機能マヒに陥った。

震源地は淡路島で、震源の深さは約一〇〇。地震の規模はマグニチュード(M)7.2。

MAINICHI

新毎日  
新聞

発行所：大阪府北区神田町3丁目4番5号 電話(06)245-1551  
郵便局認可 郵便番号 595-8458  
毎日新聞大阪本社 〇号印刷部 1995

号外

# 高速道落下、倒壊…死傷多数

グニチュード(M)7.2。

山陽新幹線の大阪駅―神戸駅間にある兵庫県伊丹市野間と尼崎市の二カ所の高架(いずれも高さ約一〇〇)がそれぞれ約百メートルにわたって崩壊し、大動脈が寸断された状態になった。

神戸市内では、ビルの倒壊が相次ぎ、全市内で停電、ガス漏れが発生し、各所で火の手が上がった。阪神高速道路が東灘、中央区などで高架が崩れ落ちたのをはじめ、道路も寸断された。兵庫県警本部に入った情報では、東灘区や長田区で住宅が多数倒壊、住民が生き埋めになっている。

戦前に建てられた中央区栄町通の第一勧業銀行神戸支店ビルは二階部分が崩れ落ち、直徑一メートル近い石の柱やガレキが道路をふさいだ。三軒三軒の古い建物の二階(八階)は、六階部分がつぶれてベシヤンコになった。中央区などでマンションの一部が倒壊、住民が閉じ込められた。

各地の震度は次の通り。

震度6 (烈震) 神戸

震度5 (強震) 豊岡、彦根、京都

震度4 (中震) 津、敦賀、福井、上野、四日市、岐阜、奥、

堺、高知、福山、鳥取、多度津、津山、徳島、岡山、高松、

大阪、舞鶴、姫路、和歌山、奈良

震度3 (弱震) 大分、名古屋、岐阜、金沢、飯田、富山、伊

良湖、秋、山口、西郷、広島、松山、宮戸、米子、松江、潮

震度2 (軽震) 横浜、長野、長野、甲府、静岡、御前崎、松本、高

山、浜松、三島、佐賀、宿毛、宇和島

震度1 (微震) 前橋、宇都宮、新潟、岡田、水戸、東京、熊

谷、人吉、福岡、下関、足尾、浜田

兵庫県西宮市消防局に入った連絡によると、午前七時現在、

約三十カ所で家屋が倒壊した。

同市甲子園口四の木造かわらけ二階建て共同住宅(四世帯

入居)では、地震の発生と同時にスリッパという音とともに倒

壊。室内で就寝中の会社員、神戸正三郎さん(50)の母親さん

(70)といううめき声が聞こえ、家族ら約十人が「がんばれ

と声をかけ見守っているという。

図表4 毎日新聞 1995年1.17付号外の記事

資料出典：毎日新聞社編(1995) P. 1

えマスメディアはこうした報道体制を今後も維持しつつ、さらに公的機関との連携もはかっていくシステムを今後は構築していく必要があると思われる。

## II 震災報道の変容－復旧から復興へ－

以上見てきたように、いかに迅速かつ的確に「被害情報」を伝達していくのかといったことがマスメディアがまず最初に果たすべき役割となるであろう。ただ震災発生からこれまでの時間のなかで、マスメディアの報道は何らかの変容を遂げてきているように思われる。発生から既に2年以上が経過し「震災」がますます「風化」の一途をたどっていく中で、今後マスメディアがどのような役割を果たしていくべきなのか、このことを考える際には、こうした変容を考慮に入れる必要があるのでないか。

そこで本章では、マスメディアにおける震災報道の変容について考察していくことにする。その際、マスメディアのなかでも特に新聞に的をしぼり、そこに見られる変容を明らかにしていくことにした。そのためにまず震災関連記事を、発生直後（1995.1.17-1995.1.21：78件）・発生から1ヶ月後（1995.2.16-1995.2.19：78件）・発生から2年後（1997.1.11-1997.1.18：133件）の3時点において取り出した（附録1・2・3）。

次に、それぞれの記事が「被害情報」「生活再建情報」「調査やシンポジウムの報告・学識者の意見」「被災地の状況（被災者の暮らし）」の内、どの種類の報道にあたるのかを検討し、各時点ごとに件数をしらべ、そのパーセンテージを算出した。その結果が、図表5である（図表5）。以下では、各種情報ごとのパーセンテージの推移を見

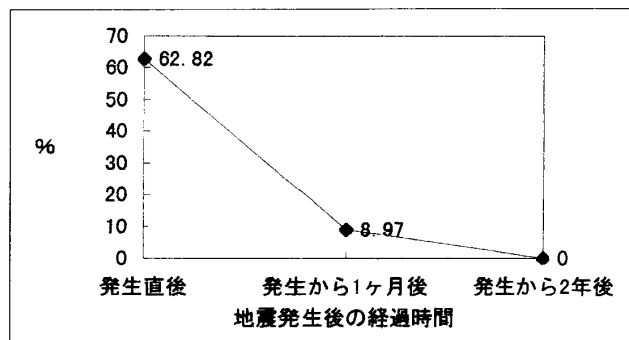
図表5 震災関連記事において占める各種情報の%

	被害情報	生活再建情報	調査やシンポジウムの報告等	被災者の暮らし
発生直後	62.82%	10.26%	2.56%	24.36%
発生から1ヶ月後	8.97%	39.74%	8.97%	42.31%
発生から2年後	0.00%	15.79%	15.04%	69.17%

資料出典：筆者作成

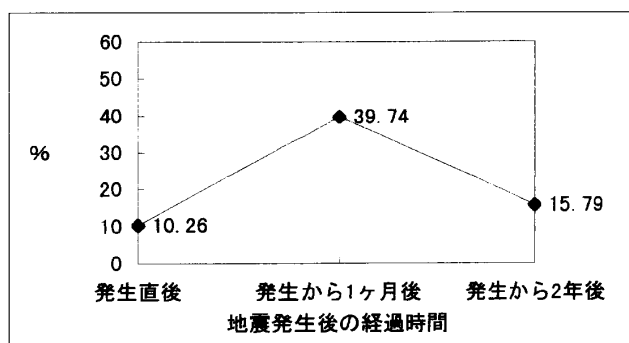
ていくことにしよう。

まず「被害情報」が占める割合を見ると、発生直後には62.82%であったものが、発生から1ヶ月後には8.97%、発生から2年が経過すると0%となっていることが分かる（図表6）。このことから、時間の経過とともに、生死に関わる切迫した情報を提供するということはマスメディアの主要な役割ではなくなると考えられる。



図表6 被害情報が占める%  
資料出典：筆者作成

次に「生活再建情報」が占める割合を見ると、発生直後には10.26%であったものが、発生から1ヶ月後には39.74%と高くなり、発生から2年が経過すると再び15.74%にまで低下していることが分かる（図表7）。すなわち生死に関わる切迫した事柄が収束に向かい始める頃から、次第にマスメディアの役割は、「ライフラインの回復」や「仮設住居の確保」、そして「義援金情報」といった衣食住を主体とする「生活再建情報」の提供に移行していると考えられる。

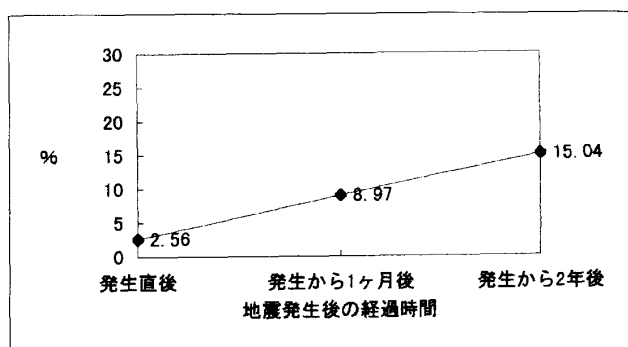


図表7 生活再建情報が占める%  
資料出典：筆者作成

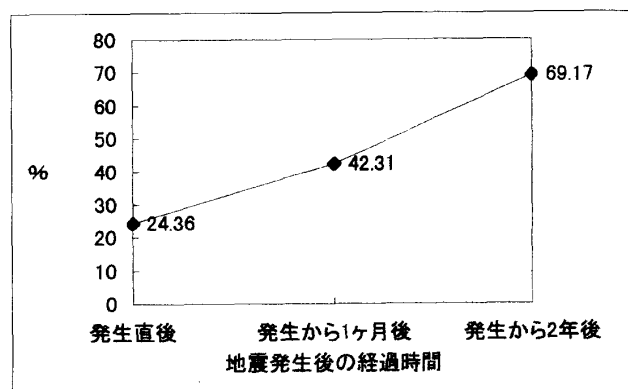
では次に、「調査やシンポジウムの報告・学識者の意見」が占める割合を見てみよう（図表8）。

これを見ると、発生直後には2.56%にすぎなかったものが、発生から1カ月後には8.97%、発生から2年後には15.04%と時間の経過とともに高くなっていることが分かる。

同様に「被災地の状況（被災者の暮らし）」が占める割合を見ると、発生直後には24.36%であったものが、発生から1ヶ月後には42.31%、発生から2年後には69.71%と、やはり時間の経過とともに高くなっていることが分かる（図表9）。



図表8 調査やシンポジウムの報告等が占める%  
資料出典：筆者作成



図表9 被災者の暮らしが占める%  
資料出典：筆者作成

以上のことから、マスメディアはその報道内容を「被害情報」→「生活再建情報」→「被災者の暮らし」（あるいは《暮らし》を回復するための「調査やシンポジウムの報告・学識者の意見」）へと移行していることが明らかになる。つまり時間の経過とともにマスメディアは、被害のあり様を迅速かつ的確に伝達することから、いかに生活を建て直していくのかへ、そしてさらには、震災を経験した人々の暮らしを見つめる息の長い報道へ移行を試みているように思われる。

震災を経験した人々にとって、「震災」は決して終わっていない。彼らは、いまだ終らぬ「震災」を生き続けているのである。そうであるとすれば彼らにとって、「復旧」は終わったかもしれないが「復興」はこれから始まるものであると言えよう。マスメディアによる報道内容の変容はまさに、こうした「復旧」から「復興」への道のりに対応したものである。

しかしながら、そこに問題はないだろうか。マスメディアは十分に、震災を経験した人々の想いをすくいあげることができているだろうか。このことを考えるために、次章では「被災者の暮らし」に関する情報に限定し、マスメディアによる報道内容を検討していくことにしよう。

### Ⅲ マスメディアによる復興「物語」

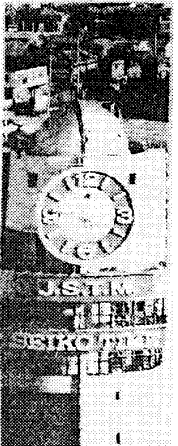
#### ー〈被災者〉をめぐる「物語」の構造分析ー

本章では「被災者の暮らし」に限定して、マスメディアによる報道内容について検討する。「被災者の暮らし」については様々な報道がなされているが、その中でも、いま〈被災者〉がどのような想いを抱いているのかといったことに関するレポートが代表的なものと考えられる。これらの報道の内容について検討していくにあたって、まず図表10を見てもらいたい。これは、毎日新聞1997年1.17付夕刊の記事である（図表10）。

ここには、「ともす希望 祈りの朝。阪神大震災2年。泣き崩れて地に伏す人も。胸に刻む午前5時46分」といった見出しがつけられており、被災者の姿が非常にドラマチックに描かれている。また写真でも、まだ明けやらぬ早朝の暗がりの中でろうそくの炎だけが揺らめき、その前で頭を垂れて祈る被災者たちの姿が写されており、いやがうえにもドラマチック性を高めている。

こうしたドラマチック性は、他の震災報道においても随所に見いだされる。例えば、読売新聞1997.1.16付朝刊では、「鎮魂と防災の誓い。震災復興へ、はばたく。念願かなえて消防士。遺影抱く母の姿も式典に」といった見出しが見いだされる。さらに読売新聞1997.1.17付夕刊においても、「再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。長男亡くした傷心いやす」といった見出しがつけられている。

神戸の壁」の前で、犠牲になった人たちの魂を慰めるため、神戸市長田区若松町3丁目17日午前5時46分、神戸市建 写す



# 朝の祈り希望すとも

阪神大震災2年

泣き崩れて  
地に伏す人も

あの朝のやみ夜かい午前5時46分。震災に耐え、探検運動が広がる神戸市長田区若松町の「神戸の壁」には、震災直後から取り出された午前5時46分の時計が掲げられた。周辺でつくづく人々にさけるような光ととも、中には涙が止まらぬ人々もあつた。

「これは神戸市が何を合がたいと。いつまでもあつた人たちのことを忘れた。壁とともに被災者や避難した近くの被災者、避難者さん68。泣きながら地面に頭をつけて祈る人の姿もあつた。

追悼のミサが行われた同区のカトリック聖母教会の周辺では、今も聖地のままのものが家飾り、花を手向け、市民の姿も。

かつて変わらぬ街が戻ってきた同市兵庫区の神戸市中央市市場本場は、5時46分に一時に閉り、本所して黙つ。震災で倒壊した建物を再建した同市兵庫区の浄徳寺では、新しい鐘が祈りを込めて初めて鳴らされた。

入居者約85人が1本ずつろうそくをともして集った同市の市中央公園仮設住宅、それぞれが、ささぎの思いを胸に刻み、犠牲者のいのちを祈

阪神大震災の衝撃で止まったままの時計

胸に刻む 午前5時46分



図表 10 毎日新聞 1997 年 1. 17 付夕刊の記事  
資料出典：毎日新聞 1997 年 1. 17 付夕刊



図表 11 物語の構造分析

物語の構造	試 練	⇒	悲しみ／苦しみ	⇒	希 望	⇒	再生／新たな旅立ち
1997/1/16読売夕刊		⇒	鎮魂と防災の誓い	⇒		⇒	震災復興へはばたく
		⇒	遺影抱く母の姿も式典に	⇒		⇒	念願かなえて消防士
1997/1/17毎日夕刊	阪神大震災 2 年 胸に刻む午前 5 時 46 分	⇒	祈りの朝	⇒	ともす希望	⇒	
		⇒	泣き崩れて地に伏す人も	⇒		⇒	
1997/1/17読売夕刊	阪神大震災から 2 年 長男亡くした	⇒	命の重さ知った	⇒	希望のめばえ	⇒	再生へ確かな歩み
		⇒	傷 心	⇒		⇒	いやす

資料出典：筆者作成

これらにおいて共通して描写されているものは何か。それは、試練による悲しみや苦しみを涙をこらえ懸命に乗り越え、希望をともして明日に向かって生きていく〈被災者〉たちのドラマである。

このことから、マスメディアによる〈被災者〉の報道には、《試練》→《悲しみ／苦しみ》→《希望》→《再生／新たな旅立ち》といった物語構造があると考えられはしないだろうか。ウラジーミル・プロップによれば様々な物語には、「表層にあらわれる多様な要素の背後に」共通の「構造」があるとされている（土田他1996：41-48）<sup>19</sup>。図表11を見ると上に挙げたような見出しがすべて、《試練》→《悲しみ／苦しみ》→《希望》→《再生／新たな旅立ち》といった共通の物語構造を採っていることが分かるだろう（図表11）。

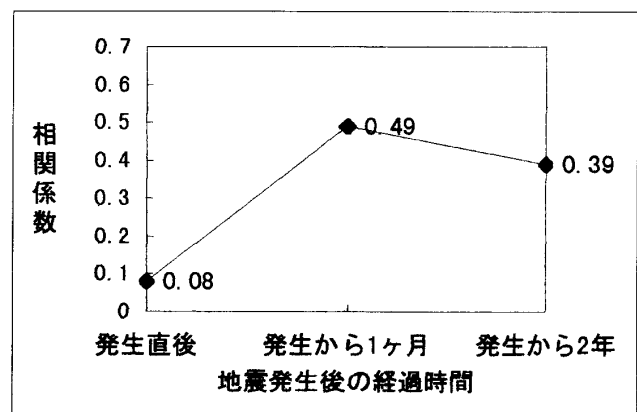
そこで、こうした仮説を実証していくために、「被災者の暮らし」に関する新聞報道の中で、《試練（「悲しみ／苦しみ」を含む）》の物語要素が強く表現されているものと《希望（「再生／新たな旅立ち」を含む）》の物語要素が強く表現されているものを、それぞれ取り出した（附録4・5・6）。その上で、これら二つの物語要素についてそれぞれ、強く表現されているものには「1」、表現されていないものには「0」とコード化し、《試練》と《希望》相互の相関係数を算出した。その結果が、図表12・13である（図表12・13）。

これらの図表を見ると、発生から2年後では「被災者の暮らし」の情報における《試練》と《希望》の相関係数は0.39であった。飽戸らの基準によれば、これは「かなり高い相関」とであるとされる（飽戸1987：91）<sup>20</sup>。したがって《試練》と《希望》は対（ペア）として語られる傾向があり、そ

図表 12 「被災者の暮らし」の情報における〈試練〉と〈希望〉の相関係数

「物語」の構造	発生直後	発生から 1 ヶ月	発生から 2 年
「被災者の暮らし」 の情報における〈 試練〉と〈希望〉 の相関係数	0.08	0.49	0.39

資料出典：筆者作成



図表 13 《試練》と《希望》の相関係数

資料出典：筆者作成

のことからマスメディア（新聞）による〈被災者〉の報道には、《試練》→《悲しみ／苦しみ》→《希望》→《再生／新たな旅立ち》といった物語構造が存すると言えるだろう。

さらに、これらの図表を見て意外なことは、「被災者の暮らし」の情報における《試練》と《希望》の相関係数が、発生から1ヶ月後の時点に

そこで、図表14を見てもらいたい。これは、神戸新聞1995年2.17付の朝刊記事である（図表14）。ここには、「揺れる心に春が来た。合格通知。負

## 合格通知

揺れる心に春が来た



# 負けたくない…夢へ一步

一週の資格通知で沈んでいた若柳に明るさが戻った。知恵子さんは青森牧場への一歩を踏み出そうとしている。神戸市兵庫区の自宅店舗

[illegible]

同職も二十五年のローンを  
（千五百万円）を組んで  
店を建て替える準備を始め  
た。

それぞれの再建

143

特別高等科教育部長官に就任した山崎大教養部部長は、十日過ぎても何の知らせもない。「落たら」とあるが、明日市の跡で別荘の警備勤務をしていて神戸市兵庫区の県立総合女子学院三年生井澤知恵さん(二二)のものに電話がかかった。母澤さんへ「お母さんが進んで受かった」と、合格したよ、郵便事情のせいから、一月三十日に届いた其間の合

日から商店を稼いでいるが、どうしても不安は断れず、たまに父を呼んで、お得意先の多きが故、災で引つ越えざるを得ない。この年になって借金して建て替えるものも、本棚から落とした本で頭を打った知恵さんは、ショックでしばらく立ちがたくなつた。耳が聞こえにくくなり、医業には「自傷」同様に危険だと診断され、同族は矢張り、おびえる頃を執通つて、鉄軌道自動車の家を離れることに反たつた。

「お母さんには一日百回電話して、おびえる頃を執通つて、鉄軌道自動車の家を離れることに反たつた。」

が十二月、やっとついたわが家に戻った。如願寺とわが祖伝の彫影に合格を報告した。

「養護教師になれなかった。さうと地蔵のせいにしてしまふ。貴族たくなけい。私が地蔵感応た恐怖は、神戸の伏魔にも大きな心の傷になつてゐる。地蔵

神戸新聞・京都新聞  
合同企画

— 48 —

# 被災地包む深い祈り

## 阪神大震災…1カ月



大の土に震った神戸市東灘区にある一軒家。被災者らは、このままでは生活できないと嘆息を吐いている。



被災者らは、このままでは生活できないと嘆息を吐いている。

### 激務の中黙とう

被災者らは、このままでは生活できないと嘆息を吐いている。

「まだ信じられな」と  
5人家族の心の傷にえぬ肉親

# 17胸に誓いの再起



「悲しみ乗り越える」  
被災者も瑞穂ちゃん忘れない



被災生徒にも春の朗報

公立高推薦入試の合格発表

図表 15 神戸新聞 1995 年 2 月 17 付夕刊の記事  
資料出典：神戸新聞社編（1995）P.302～303

以上のことから、《試練》→《悲しみ／苦しみ》→《希望》→《再生／新たな旅立ち》といった物語はかなり以前にまで遡及でき、その起源は発生から1カ月前後の時期にあると考えられるだろう。そのとき以来、今日まで、同じ物語がマスメディア上で何度も繰り返されてきたのである。

そういう意味でマスメディアが描写し創りだしてきた〈被災者〉というカテゴリーは、見田のひそみに倣うならば「《希望》を抱くよう強いられた存在」、あるいは「《試練》を乗り越えるよう強いられた存在」であると言えることができるだろう（見田1978：112）<sup>3)</sup>。しかしながら、マスメディアによって描かれてきたこうした復興「物語」は、果して震災を経験した人々の想いを十分にすくいあげ得ているだろうか。この問いについては章をあらため論じていくことにしたい。

#### IV マスメディアにおける「物語」のステレオタイプ（定型）化

－震災を経験した人々の想いとゾレー  
前章で述べたように、マスメディアが描写し創

りだしてきた〈被災者〉というカテゴリーは、「《希望》を抱くよう強いられた存在」、あるいは「《試練》を乗り越えるよう強いられた存在」となっていると言える。このことを象徴的にあらわすものとして、『TOMORROW』（岡本真夜）という曲がテレビの震災報道などで何度か繰り返され流されていたことが挙げられよう。

そもそも、この曲は震災を経験した人々のためにつくられたわけではない。それでも震災を経験した人々は、この曲に自分たちの状況を仮託し、特にサビの部分である「涙の数だけ強くなれるよ／アスファルトに咲く花のように／見るものすべてにおびえないで／明日は来るよ 君のために」という箇所に「励まされた」という人も多い。したがって、この曲そのものについて言えば、震災を経験した人々の傷ついた心を癒し、彼らのために新たなリアリティを切り拓く力を持っていたと言えることができる。

「物語」の機能とは、実はここにある。私たち人間は、自己や他者の《生》に対して何らかの〈意味づけ〉をしながら生きている。逆に私たち

#### TOMORROW（岡本真夜）

涙の数だけ強くなれるよ／アスファルトに咲く花のように／見るものすべてにおびえないで／明日は来るよ 君のために  
突然会いたいなんて／夜更けに何があったの／あわててジョークにしても／その笑顔がかなしい  
ビルの上には ほら月明り／抱きしめてる 思い出とか／プライドとか 捨てたらまた／いい事あるから  
涙の数だけ強くなれるよ／アスファルトに咲く花のように／見るものすべてにおびえないで／明日は来るよ 君のために  
季節を忘れるくらい／いろんな事があるけど／二人でただ歩いてる／この感じがいい  
頼りにしてる だけど時には／夢の荷物 放り投げて／泣いてもいいよ つきあうから／カッコつかないで  
涙の数だけ強くなろうよ／風に揺れてる花のように／自分をそのまま信じていてね／明日は来るよ どんな時も  
涙の数だけ強くなれるよ／アスファルトに咲く花のように／見るものすべてにおびえないで／明日は来るよ 君のために  
涙の数だけ強くなろうよ／風に揺れてる花のように／自分をそのまま信じていてね／明日は来るよ どんな時も  
明日は来るよ 君のために

（作詞：岡本真夜、真名杏樹 作曲：岡本真夜 編曲：十川知司、1995）

人間は、そうしなければ生きていけない存在であると言っている。とするならば、《生》に対して何らかの〈意味づけ〉を行おうとするとき、そこには〈意味づけ〉のロジックやレトリックが必要となる。「物語」とは、こうしたロジックやレトリックを提供し、私たちの人生を支えてくれるものなのである。

井上が述べるように、「私たちは、自分の人生をも他者の人生をも、物語として理解し、構成し、意味づけ、自分自身と他者たちとにその物語を語る、あるいは語りながら理解し、構成し、意味づけていく—そのようにして構築され語られる物語こそが私たちの人生にほかならない」のだ（井上1996：25）。そうであるならば、たとえ一見、自己閉塞的な状況に向い合った時でも、「物語」が提供する〈意味づけ〉のロジックやレトリックによっては新たなリアリティが開示されることもありうるのである。『TOMORROW』は、こうした新たなリアリティを切り拓いていく瑞々しい「物語」の力を持った曲であった。

だがしかしマスメディアは、「物語」本来の力を持っていたこの曲をテレビの震災報道等で何度もリフレインし、《試練》→《悲しみ／苦しみ》→《希望》→《再生／新たな旅立ち》といった自己の物語構造の中に取り込んだのである（図表16）。その結果、マスメディアはこの曲の瑞々しさを見失い、自己が提示した「物語」を一層ステレオタイプ（定型）化することになったのではないだろうか。こうして〈被災者〉というカテゴリーは、以前にもまして、《試練》を乗り越え《希望》を抱くよう期待されていたのである。

しかし、「《希望》を抱こう」、「《試練》を乗り越えよう」と何度繰り返し強いられたところで、震災を経験した人々の傷ついた心が癒されるわけではない。震災を経験した人々の中には、大好き

だったはずの亡くなった両親の顔を忘れることで自らの心を安定させている子どもがいる。また震災によってPTSDにかかったり、アルコール依存症から抜け出せずに苦しんでいる人々も少なからずいる。彼らに必要なのは何よりも、彼らの前に新たなリアリティを切り拓いて見せてくれる想像力豊かな「物語」、すなわち彼らの人生を支えてくれる「物語」なのだ。だが「物語」はステレオタイプ（定型）化された途端、そうした瑞々しい想像力を喪失し、新たなリアリティを切り拓く力を失う。こうして、マスメディアの復興「物語」は今、震災を経験した人々の想いとの間で微妙なズレをうみだしているかのように思われる。

とするならば、「物語」をステレオタイプ（定型）化し繰り返すのではなく、震災によって傷ついた「心」の復興に向け想像力（＝リアリティ創造力）豊かな「物語」を創出していくことこそ、今後マスメディアが担うべき重要な役割として考えられなくてはならないであろう。

むすびにかえて

—「心」の復興に向けた想像力豊かな「物語」の創出—

以上、阪神大震災においてマスメディアが果たすべき役割について論じてきた。

震災発生直後にあっては迅速かつ的確な「被害情報」を提供するということが、マスメディアの重要な役割であった。しかしながら、その役割は時間の経過とともに、生活再建の支援を行うということから、震災を経験した人々の傷ついた「心」を復興していくということへと移行していく。

だがその際、「心」の復興は《希望》を言葉にするだけでは達成されないと思われる。むしろアイロニカルなことだが、《希望》を言葉にしない

図表 16 マスメディアの物語構造における「TOMORROW」

物語の構造	試 練	⇒	悲しみ／苦しみ	⇒	希 望	⇒	再生／新たな旅立ち
TOMORROW	アスファルトに	⇒	涙の数だけ	⇒	咲く花のように	⇒	強くなれるよ
		⇒		⇒		⇒	
		⇒	見るものすべてに	⇒		⇒	明日は来るよ
		⇒	おびえないで	⇒		⇒	君のために

資料出典：筆者作成

ことではじめて、震災を経験した人々の「心」に希望の光が宿りうるのではないだろうか。そのためには、彼らに対して新たなリアリティを切り拓いて見せる想像力豊かな「物語」を創出していくことが必要だと思われる。

もちろん、これはマスメディアのみに担わされ

る責務ではない。そうではなく、それは医師やアーティスト、それに私たち研究者までも含めて、マスメディアと連携しつつ実現していくべきことであらう。そういう意味で、私たちの一人一人が、阪神大震災のクライシス・コントロールに責任を負っていると言えるだろう。

(注)

- 1) 「物語の構造分析」等の文学理論を、今後いかに社会学の中で「消化」していくのかということは、とりわけメディアの言説を一つのテキストとして見る場合に重要な課題になるのではないだろうか。
- 2) 鮑戸は相関係数の高低を判断する基準について、次のように述べている。  
「私は、一般に0.6をこえると“大変高い相関である”と言う。0.3をこえると、“かなり高い相関である”と言う。それ以外のときに、“低い相関である”と言う」(鮑戸 1987 : 91)。
- 3) 見田は、その著『近代日本の心情の歴史－流行歌の社会心理史』において、「現代人は『幸福』であることを強いられている」と述べている(見田 1978 : 112)。

参考文献

- 鮑戸弘 (1987) 『社会調査ハンドブック』東京：日本経済新聞社  
朝日新聞社編 (1995) 『報道写真全記録 阪神大震災』東京：朝日新聞社  
船津衛 (1994) 『地域情報と地域メディア』東京：恒星社厚生閣  
井上俊 (1996) 「物語としての人生」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉 (編) 『岩波講座・現代社会学 9 ライフコースの社会学』(pp.11-27) 東京：岩波書店  
石田佐恵子 (1996) 「メディア時代の〈現実〉探しゲーム」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉 (編) 『岩波講座・現代社会学 22 メディアと情報化の社会学』(pp.157-174) 東京：岩波書店  
国土庁編 (1996) 『平成8年版 防災白書』東京：大蔵省印刷局  
神戸新聞社編 (1995) 『神戸新聞 特別縮刷版 報道記録阪神大震災』神戸：神戸新聞社総合出版センター  
毎日新聞社編 (1995) 『阪神大震災 特別縮刷版－毎日新聞(大阪本社発行)は何を伝えたか』大阪：毎日新聞社  
Levi-Strauss, C. (1958) . *La Geste d'Asdiwal*. École pratique des haute etudes. 西澤文昭訳 (1993) 『アスディワル武勲詩』東京：青土社  
見田宗介 (1978) 『近代日本の心情の歴史－流行歌の社会心理史』東京：講談社学術文庫  
日本経済新聞社 (1995) 『日本経済新聞縮刷版・1995年1月』東京：日本経済新聞社  
日本経済新聞社 (1996) 『日本経済新聞縮刷版・1996年1月』東京：日本経済新聞社  
大村英昭 (1996) 「死の社会学－フレーム分析に向けて」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉 (編) 『岩波講座・現代社会学 9 ライフコースの社会学』(pp.167-188) 東京：岩波書店

土田知則・神郡悦子・伊藤直哉（1996）『現代文学理論－テキスト・読み・世界』東京：新曜社  
読売新聞社編（1995）『大阪読売 阪神大震災 特別縮刷版』東京：読売新聞社  
読売新聞社編（1995）『大阪読売 阪神大震災 続・特別縮刷版』東京：読売新聞社  
吉井博明（1996）『都市防災』東京：講談社現代新書

なお本稿は、（株）原子力安全システム研究所のワークショップである阪神・淡路大震災研究会（研究者代表・倉田和四生）による平成8年度報告書『阪神・淡路大震災における危機管理のあり方－行政・企業・地域住民を中心に』において筆者が担当した部分の原稿を転載したものである。

この場をお借りし転載を許可して頂いた（株）原子力安全システム研究所にお礼を申し上げます。

附録 1 発生直後の震災関連記事の見出し

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1995/ 1 /17	読売新聞	号外	神戸震度 6 京都・彦根 5		1	0	0	0
1995/ 1 /17	毎日新聞	号外	近畿で大地震。淡路島震源 M7.2。神戸震度 6		1	0	0	0
1995/ 1 /17	毎日新聞	号外	未明烈震 都市機能マヒ。多数生き埋め情報も		1	0	0	0
1995/ 1 /17	読売新聞	夕刊	死者 430 人超す。阪神間 M7.2 地震		1	0	0	0
1995/ 1 /17	読売新聞	夕刊	地割れ、倒壊 廃墟の街		1	0	0	0
1995/ 1 /17	読売新聞	夕刊	都市直撃大パニック 高速道路真つ二つ、車転落		1	0	0	0
1995/ 1 /17	読売新聞	夕刊	迫る火の手 悲鳴		1	0	0	0
1995/ 1 /17	毎日新聞	夕刊	死者 439 人 不明 580 人。近畿で大地震 M7.2		1	0	0	0
1995/ 1 /17	毎日新聞	夕刊	烈震急襲 都市ズタスタ。猛火 地割れビル倒壊		1	0	0	0
1995/ 1 /17	毎日新聞	夕刊	高速道 崩れた安全神話。典型的な「都市直下」		1	0	0	0
1995/ 1 /17	毎日新聞	夕刊	患者ら 53 人生き埋め。高速道、波打って落下		1	0	0	0
1995/ 1 /18	読売新聞	朝刊	死者 1681、不明 1017 人		1	0	0	0
1995/ 1 /18	読売新聞	朝刊	家も家族も失った 避難住民放心の夜		0	0	0	1
1995/ 1 /18	読売新聞	朝刊	烈震地獄 恐怖の住民。肉親呼ぶ声余震非情		0	0	0	1
1995/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	死者 1681 人。不明 1017 人、倒壊 7876 戸		1	0	0	0
1995/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	「列島 地震活動期に」		1	0	0	0
1995/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	無防備だった防災体制		1	0	0	0
1995/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	過密な分だけ被害甚大。もろさ露呈 都市構造物。阪神大震災緊急座談会		0	0	1	0
1995/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	まるで空襲の跡。がれきの中「家族はどこに」		1	0	0	0
1995/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	阪神大震災未明のパニック。家屋倒壊、ガラスの雨		1	0	0	0
1995/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	生への「すき間」 30 センチ。駅周辺 焼け野原		1	0	0	0
1995/ 1 /18	読売新聞	夕刊	死者 2014 不明 1058 人。焼失 100 ヘクタール 復旧進まず		1	0	0	0
1995/ 1 /18	読売新聞	夕刊	絶望の朝 動き出す。住民力合わせ救出作業		0	0	0	1
1995/ 1 /18	毎日新聞	夕刊	死者 2000 人超す。LP ガス漏れ 8 万人避難勧告		1	0	0	0



日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1995/ 1 /18	毎日新聞	夕刊	神戸震度7に近かった		1	0	0	0
1995/ 1 /18	毎日新聞	夕刊	廃墟の街、さめぬ恐怖		1	0	0	0
1995/ 1 /18	毎日新聞	夕刊	亡くなられた方々		1	0	0	0
1995/ 1 /18	毎日新聞	夕刊	飲まず食わず 募る不安。水、電気・・・ いつ復旧		0	0	0	1
1995/ 1 /19	読売新聞	朝刊	死者2943人。不明870人、火災小康状態		1	0	0	0
1995/ 1 /19	読売新聞	朝刊	災害弔慰金100億円		0	1	0	0
1995/ 1 /19	読売新聞	朝刊	ガレキの下なお870人		1	0	0	0
1995/ 1 /19	毎日新聞	朝刊	死者3000人にも。阪神大震災24万人なお 避難。電気、水、ガス 回復まで1ヵ月		1	0	0	0
1995/ 1 /19	毎日新聞	朝刊	悲しみ耐え、生きる		0	0	0	1
1995/ 1 /19	毎日新聞	朝刊	亡くなられた方々		1	0	0	0
1995/ 1 /19	毎日新聞	朝刊	危機管理の弱点露呈。企業復旧作業、手 間取る		1	0	0	0
1995/ 1 /19	毎日新聞	朝刊	絶望のふち 街を出る。ミルクの水もなく		0	0	0	1
1995/ 1 /19	読売新聞	夕刊	死者3千人超す。烈震3日目の朝		1	0	0	0
1995/ 1 /19	読売新聞	夕刊	通勤の足、続々復旧。JR・私鉄・高速		0	1	0	0
1995/ 1 /19	読売新聞	夕刊	息子よ、友よ、無事か。廃墟の街に張り 紙、伝言		0	0	0	1
1995/ 1 /19	毎日新聞	夕刊	死者3130人 不明884人。被害 戦後最 大級に		1	0	0	0
1995/ 1 /19	毎日新聞	夕刊	都市の姿 見直しを。がれきの街 言葉 も出ず。笹山神戸市長に聞く		0	0	1	0
1995/ 1 /19	毎日新聞	夕刊	もろかった耐震高架橋		1	0	0	0
1995/ 1 /19	毎日新聞	夕刊	亡くなられた方々		1	0	0	0
1995/ 1 /19	毎日新聞	夕刊	再開の朝 でも友は・・・。尼崎で小、 中校再開		0	0	0	1
1995/ 1 /19	毎日新聞	夕刊	ガレキの中 猛炎追い打ち		1	0	0	0
1995/ 1 /20	読売新聞	朝刊	死者4047人。戦後最悪の震災に		1	0	0	0
1995/ 1 /20	毎日新聞	朝刊	死者4000人超す。戦後最悪		1	0	0	0
1995/ 1 /20	毎日新聞	朝刊	自衛隊支援活動。初動遅れ認める		1	0	0	0
1995/ 1 /20	毎日新聞	朝刊	復旧費は5兆円超		1	0	0	0

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1995/ 1 /20	毎日新聞	朝刊	被害額 8 兆円の見方も。復興へまず物流 再構築		1	0	0	0
1995/ 1 /20	毎日新聞	朝刊	府内に広がる支援の輪。民間から衣・食 援助		0	1	0	0
1995/ 1 /20	毎日新聞	朝刊	飢え 渇水に耐え		0	0	0	1
1995/ 1 /20	毎日新聞	朝刊	「麻酔なしで傷縫った」		0	0	0	1
1995/ 1 /20	毎日新聞	朝刊	9 歳、58 時間ぶりに救出		0	0	0	1
1995/ 1 /20	読売新聞	夕刊	死者4124 不明なお729人		1	0	0	0
1995/ 1 /20	読売新聞	夕刊	神戸から” 脱出” 一番船。大阪へ向け家 族ら400人		0	0	0	1
1995/ 1 /20	毎日新聞	夕刊	命をつなぐ国道 2 号		0	1	0	0
1995/ 1 /20	毎日新聞	夕刊	救援物資輸送本格化。死者は4084人に		1	0	0	0
1995/ 1 /20	毎日新聞	夕刊	余震の果、海底に活断層		1	0	0	0
1995/ 1 /20	毎日新聞	夕刊	救援物資、渋滞が輸送阻む		1	0	0	0
1995/ 1 /20	毎日新聞	夕刊	亡くなられた方々		1	0	0	0
1995/ 1 /20	毎日新聞	夕刊	被災住民 買い出しの波。飛ぶデマに自 警団		0	0	0	1
1995/ 1 /20	毎日新聞	夕刊	悪いな 大きな家に住めんかった。そん なことないよあんな。生き埋め夫婦 最 後の会話。救出後妻死亡		0	0	0	1
1995/ 1 /21	読売新聞	朝刊	死者4555 不明665人		1	0	0	0
1995/ 1 /21	読売新聞	朝刊	仮設住宅の建設始まる		0	1	0	0
1995/ 1 /21	毎日新聞	朝刊	史上初の激震。死者は4555人		1	0	0	0
1995/ 1 /21	毎日新聞	朝刊	ライフライン複合被害。相互に復旧妨げ る		0	1	0	0
1995/ 1 /21	毎日新聞	朝刊	静けさ、いつ・・・。阪神大震災。なぜ こんな。無事だよ。		0	0	0	1
1995/ 1 /21	毎日新聞	朝刊	非情の荒野 小さな葬儀点々。祈りの街・ 長田。「助けられず、ごめん」		0	0	0	1
1995/ 1 /21	読売新聞	夕刊	死者4614人		1	0	0	0
1995/ 1 /21	読売新聞	夕刊	水・食料運べ” 救援電車” 。福知山線が 全通		0	1	0	0
1995/ 1 /21	毎日新聞	夕刊	今夜にも雨。二次災害警戒。		1	0	0	0
1995/ 1 /21	毎日新聞	夕刊	死者4612人に。		1	0	0	0
1995/ 1 /21	毎日新聞	夕刊	疲労の色濃く 募る不安。車いすのテン ト暮らし・・・窮乏の中にも” 格差”		0	1	0	0

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1995/ 1 /21	毎日新聞	夕刊	歩け歩け 苦闘の買い出し		0	0	0	1
1995/ 1 /21	毎日新聞	夕刊	今度は地滑りの恐怖		1	0	0	0
1995/ 1 /21	毎日新聞	夕刊	ママさん社長も下敷死亡。赤ちゃん抱き しめて。抱かせて納棺		0	0	0	1
1995/ 1 /21	毎日新聞	夕刊	小さな笑顔 大きな力。震災下の子供		0	0	0	1
				合計	49	8	2	19
				%	62.82%	10.26%	2.56%	24.36%

附録 2 発生から 1 ヶ月後の震災関連記事の見出し

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	避難所になお21万人。阪神大震災から1 ヵ月。ライフライン全面復旧遅れる		0	1	0	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	町工場。下町の元気ここから。口をへの 字にあきらめへん		0	0	0	1
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	被災地「関西」復興への提言。経済評論 家・内橋克人氏		0	0	1	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	被災地の経済影響。損失総額は10兆円。		1	0	0	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	長田区内に県・神戸市。賃貸の仮設工場。		0	1	0	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	神戸ファッションマート。199テナント の半数が避難検討。		0	1	0	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	痛み共有 励まし合って。崩壊から再起 へ。激震 1 ヶ月記者座談会		0	0	1	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	阪神大震災 震度 7 の傷跡		1	0	0	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	M7.2直撃・・・悲痛な叫び。新たな街 へ生活の息吹		0	0	0	1
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	被災地の栄養士ら奮闘。野菜不足で工夫 凝らす		0	0	0	1
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	震災と産婦人科医。痛感した情報不足。 やっと診察を再開へ		0	0	0	1
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	小さな日に「地震」鮮烈。児童が「あの 日」を作文に		0	0	0	1
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	光走り大地が波打った。あの笑顔 胸に 生きてる		0	0	0	1
1995/ 2 /16	神戸新聞	朝刊	あすに向かって。力合わせ、再建のつつ 音。和らぐ。出直し。仕事歌。助け合い。 手作り。祈り。再開		0	0	0	1
1995/ 2 /16	神戸新聞	夕刊	地下鉄が全面開通。三宮駅など 3 駅通過		0	1	0	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	夕刊	特別法待ち出足鈍く。確定申告スタート		0	1	0	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	夕刊	大地震 1. 17。その時県警は。庁舎崩壊 /110番殺到/液状化の泥。混乱下懸命に 職務		0	0	0	1
1995/ 2 /16	神戸新聞	夕刊	被災文化財守れ。県教育委		0	0	1	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	夕刊	被災大学、短大が連絡会結成		0	1	0	0
1995/ 2 /16	神戸新聞	夕刊	避難所で 1 歳のバースデー。一輝ちゃん。 歩いたよ		0	0	0	1
1995/ 2 /16	神戸新聞	夕刊	復活、芦屋・津知町の記録。全壊の町、 広がる結束。テント村。この地で暮らし たい		0	0	0	1
1995/ 2 /16	神戸新聞	夕刊	大阪内陸でも液状化		1	0	0	0
1995/ 2 /17	神戸新聞	朝刊	国・地元一体で対策。阪神・淡路復興委、 緊急 3 テーマ決定。住宅、がれき処理も		0	1	0	0

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1995/ 2 /17	神戸新聞	朝刊	正午に黙とうを		0	0	0	1
1995/ 2 /17	神戸新聞	朝刊	揺れる心に春が来た。合格通知。負けたくない・・・夢へ一歩		0	0	0	1
1995/ 2 /17	神戸新聞	朝刊	反省踏まえ再興へ。10年目標、フェニックス計画		0	1	0	0
1995/ 2 /17	神戸新聞	朝刊	再生の道険しくても・・・決意新た「わが街復活」。阪神大震災 復興計画づくり急ぐ被災自治体		0	1	0	0
1995/ 2 /17	神戸新聞	朝刊	仮設住宅4万戸 建設ゴーサイン		0	1	0	0
1995/ 2 /17	神戸新聞	朝刊	大震災1ヵ月。被害10兆円近くに。学校関係2500億円。家屋全壊は長田が最多		1	0	0	0
1995/ 2 /17	神戸新聞	夕刊	安らかに。復興へ決意新た		0	0	0	1
1995/ 2 /17	神戸新聞	夕刊	8100億円の赤字国債発行。震災復興対策1兆300億円。支援対象拡大へ新法		0	1	0	0
1995/ 2 /17	神戸新聞	夕刊	住宅公庫融資。据え置き期間5年に		0	1	0	0
1995/ 2 /17	神戸新聞	夕刊	復活、芦屋・津知町の記録。転居。残る思いよぎる恐怖		0	0	0	1
1995/ 2 /17	神戸新聞	夕刊	公立高推薦入試の合格発表。被災生徒にも”春”朗報		0	0	0	1
1995/ 2 /17	神戸新聞	夕刊	被災地包む深い祈り。1・17胸に誓う再起。阪神大震災1ヵ月		0	0	0	1
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	再生誓う。ガレキの街 黙とう。阪神大震災1ヵ月。21万人なお避難所に。		0	0	0	1
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	鎮魂の鐘 鳴り響く中		0	0	0	1
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	復興3法今夕に成立		0	1	0	0
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	弔慰金手続き 芦屋で始まる		0	1	0	0
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	安藤さん一家の震災日記。靴作り始まった。二男も野球の練習開始。		0	0	0	1
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	<あの瞬間>忘れない。復興へ歩み力強く。震災1ヵ月それぞれの午前5時46分。		0	0	0	1
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	公庫住宅ローン。据え置き 最長5年		0	1	0	0
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	コジロー、元気で頑張れ。父の働く工場倒れ静岡へ		0	0	0	1
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	思いやる心育つ。ボランティアの姿に接し		0	0	0	1
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	阪神大震災。救援募金		0	1	0	0
1995/ 2 /17	読売新聞	夕刊	被災者逆なで耐震住宅PR。倒壊家屋と対比。一部メーカー、パンフ配布		0	0	0	1
1995/ 2 /18	読売新聞	朝刊	被災地に”春”を呼べ。「選抜」開催。ひたむきさ励みに。甲子園周辺「常識ある行動を」		0	0	0	1

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1995/ 2 /18	読売新聞	朝刊	予知から地震災害軽減へ。余震分布の観測で救援の優先度判断（文部省計画）		0	0	1	0
1995/ 2 /18	読売新聞	朝刊	「介護保険制度」審議スタート。「災害時」の視点 不可欠		0	1	0	0
1995/ 2 /18	読売新聞	夕刊	水道幹線 4 割が旧式管。転換遅れ被害拡大。阪神企業団107ヶ所で破損、漏水		1	0	0	0
1995/ 2 /18	読売新聞	夕刊	全壊マンション 立て替えて特例。		0	1	0	0
1995/ 2 /18	読売新聞	夕刊	神戸市の仮設工場。臨海部・西区で来月にも着工		0	1	0	0
1995/ 2 /18	読売新聞	夕刊	震災ゴミに舞う		0	0	0	1
1995/ 2 /18	読売新聞	夕刊	「六甲の湧水」震災異変。3－6 倍に増えた		0	0	0	1
1995/ 2 /18	読売新聞	夕刊	バブル崩壊・・・ガラ空きだった。億ション入居の動き。被災企業など次々。JR 芦屋駅前		0	0	0	1
1995/ 2 /18	読売新聞	夕刊	シネマに情熱・・・先輩の遺志継ぐ。神戸大「映研」部室から無傷のフィルム 300本		0	0	0	1
1995/ 2 /18	読売新聞	夕刊	部外者の駐車 大弱り。避難所に続々緊急車通れず		0	1	0	0
1995/ 2 /18	読売新聞	夕刊	足りるのか 仮設住宅。避難所生活21万人。建設予定 4 万戸 応募は 9 万世帯		0	1	0	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	仮設住宅近く診療所10ヶ所。阪神大震災。国が建設費負担。		0	1	0	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	大阪に災害医療拠点		0	1	0	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	余震洲本で震度 4		1	0	0	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	JR 灘－神戸。阪神岩屋－三宮。あす開通		0	1	0	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	何もできなかった。恨まないで・・・。長田で合同葬儀		0	0	0	1
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	「戻りたい」が 7 割。疎開者100人にアンケート		0	0	1	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	「予知のリスク」巡り激論。地震注意報		0	0	1	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	仮設住宅建設用地。校庭の利用拡大。10校で800戸超す		0	1	0	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	ボランティア学生に単位。日本文理大		0	0	0	1
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	神戸市立全校園24日までに再開		0	0	0	1
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	震災ショックで不眠や物音過敏。PTSDの兆候目立つ。京都女子大などの心理相談		0	0	1	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	「隣のマンション倒壊寸前」解体申し立て		0	1	0	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	西宮税務署。土曜閉庁「何でや」		0	1	0	0

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	傷心いやす大正琴「あの怖さ忘れられる」		0	0	0	1
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	阪神大震災。救援募金		0	1	0	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	署長「市民救出が先だ」公私のはざままで揺れ		0	0	0	1
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	近畿に余震。思わずリュック背に		1	0	0	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	高速道大惨事。遺族は救われるのか。補償の行方に難題		0	1	0	0
1995/ 2 /19	読売新聞	朝刊	仮設住宅。コート 8 面に120戸。芦屋名門テニスクラブ協力		0	1	0	0
				合計	7	31	7	33
				%	8.97%	39.74%	8.97%	42.31%

附録3 発生から2年後の震災関連記事の見出し

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1997/1/11	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。難病の娘いとおしむ。 出産控え入院、母と兄救った		0	0	0	1
1997/1/11	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。血縁超えたきずな。		0	0	0	1
1997/1/11	読売新聞	朝刊	震災で被害の特養ホーム。善意に支えら れ開園へ		0	0	0	1
1997/1/11	読売新聞	夕刊	震災2年―神戸市・中野南区からの旅立 ち。テント村で生きた証、胸に。		0	0	0	1
1997/1/11	毎日新聞	夕刊	いま、被災地で。災害救助犬。50頭がス タンバイ		0	0	0	1
1997/1/11	毎日新聞	夕刊	いま、被災地で。ゴスペル歌手、森祐理 さん。「しあわせ運べるように」		0	0	0	1
1997/1/11	毎日新聞	夕刊	いま、被災地で。大阪ボランティア。求 め勤労者パワー。信頼度高いと期待		0	0	0	1
1997/1/12	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年、5000人実態調査。自宅 再建やと57%。2割、今後も困難。 「収入減少した」3割		0	0	1	0
1997/1/12	読売新聞	朝刊	心を癒すふれあい。30年の「夫婦史」胸 に		0	0	0	1
1997/1/12	読売新聞	朝刊	心を癒すふれあい。先生、またピアノ教 えて		0	0	0	1
1997/1/12	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。5000人実態調査。人の 和、大切に。前向きに生きよう		0	0	1	0
1997/1/12	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。5000人実態調査。働き たい、働けない。続く赤字、細る預金		0	0	1	0
1997/1/12	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。5000人実態調査。家賃 上がり苦しい。再建へ資金足りぬ		0	0	1	0
1997/1/12	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。5000人実態調査。再建 格差さらに拡大		0	0	1	0
1997/1/12	毎日新聞	朝刊	”勇気の使者”2000人。被災地の球児ら、 油回収リレー		0	0	0	1
1997/1/13	読売新聞	朝刊	消える特例。国の抜本策問う正念場		0	1	0	0
1997/1/13	読売新聞	朝刊	後輩救えなかった無念越え。古里の自然 と生きる		0	0	0	1
1997/1/13	読売新聞	朝刊	遺児のこぶしの重み忘れず。歩み見守り 続けたい		0	0	0	1
1997/1/13	毎日新聞	朝刊	夫の遺産4000万円国庫へ。一家3人震災 死。30年間同居の妻の弟、無情、相続人 になれず。		0	0	0	1
1997/1/13	毎日新聞	朝刊	阪神大震災2年。復興に市民の観点を。 隠された真の悲惨さ。義援金より公的援 助。災害不安は全国共通		0	0	1	0
1997/1/13	読売新聞	夕刊	大震災で倒壊、阪神間の下宿は今。大家 さん、いえぬ傷。無防備すぎた/再建決 心つかぬ/思い出したくない		0	0	0	1
1997/1/13	毎日新聞	夕刊	震災の阪神高速倒壊で死亡。公団に賠償 求め提訴へ		0	0	0	1



日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1997/1/13	毎日新聞	夕刊	阪神高速倒壊、損害賠償提訴。理不尽な死、繰り返さぬために。真相究明、息子の供養		0	0	0	1
1997/1/13	毎日新聞	夕刊	震災で被災の障害者を支援。「お声拝借テープ」完成。関西の芸能人らが朗読		0	0	0	1
1997/1/14	読売新聞	朝刊	宙に浮く義援金。制度なく「現場」は混乱		0	1	0	0
1997/1/14	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。金看板はトアロードに。ジャズの息吹もう一度。華僑の仕立店、再建へ愛着。		0	0	0	1
1997/1/14	読売新聞	朝刊	阪神大震災。高速倒壊、公団を提訴へ。犠牲者の母親9200万円賠償求め		0	0	0	1
1997/1/14	読売新聞	朝刊	「被災者追悼歌」CDで歌い継ぐ。「天国で聴いていて」。臼井教諭が作詞・作曲。弟亡くした森さん歌う		0	0	0	1
1997/1/14	読売新聞	朝刊	大震災復興、着々と。総合評価は「79」。高速道路、産業、観光など。「住宅」遅れ目立つ		0	0	1	0
1997/1/14	毎日新聞	朝刊	忘れ得ぬ”幸せの城”。自宅崩壊、再建資金も”詐取”され		0	0	0	1
1997/1/14	毎日新聞	朝刊	神戸の震災復興度79%。道路、鉄道など着実、自宅建設遅れる		0	0	1	0
1997/1/14	読売新聞	夕刊	震災時高3・・・はたちの門出。母を奪ったタンスから反物取り出し振り袖に。		0	0	0	1
1997/1/14	読売新聞	夕刊	震災時高3・・・はたちの門出。避難の車中で受験勉強3日間。		0	0	0	1
1997/1/14	読売新聞	夕刊	震災時高3・・・はたちの門出。福祉に情熱。級友の死。今も心の中に		0	0	0	1
1997/1/14	読売新聞	夕刊	「心のケア」一人一人に。被災者の所へ出向く治療必要		0	0	1	0
1997/1/14	毎日新聞	夕刊	大震災で全壊の西宮「阪神市場」再建断念、解散決める。40余年 ご愛顧ありがとうございました		0	0	0	1
1997/1/15	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。地域つなぐ心の拠り所。教会が生まれ変わる。人のために・・・目覚めて		0	0	0	1
1997/1/15	読売新聞	朝刊	ボランティア参加。しぶる司法研修所。振り切り被災地へ。元修習生、やり取りを手記に		0	0	0	1
1997/1/15	読売新聞	朝刊	記憶を風化させない。震災手記を発刊。吹田の9団体		0	0	0	1
1997/1/15	読売新聞	朝刊	大震災人とくらし。新たな”自分”の旅立ち。生き延びた幸運、人生観が一変		0	0	0	1
1997/1/16	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。巣立つ、あの日の1年生。「克己」胸に/勇気の種		0	0	0	1
1997/1/16	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。巣立つ、あの日の1年生。教え子の死、語り継ぐ		0	0	0	1
1997/1/16	読売新聞	朝刊	鎮魂と防災の誓い。震災復興へ、はばたく。念願かなえて消防士。遺影抱く母の姿も式典に		0	0	0	1

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1997/1/16	読売新聞	朝刊	震災による PTSD 症状。4 ヶ月でかなり回復。「ショックない」7 割に増加。関学生900人調査		0	0	1	0
1997/1/16	読売新聞	朝刊	大震災人とくらし。店開店・・・でも遠い客足。市民活動で弾み、店主にやる気戻る		0	0	0	1
1997/1/16	読売新聞	朝刊	阪神大震災から2年、シンポジウム。震災の教訓、風化許すな。		0	0	1	0
1997/1/16	毎日新聞	朝刊	阪神大震災、あす2年。子どもの心に「復興意欲」。第5回ネットケア調査。不安、恐怖薄れる。非常食用意は大幅減少		0	0	1	0
1997/1/16	毎日新聞	朝刊	この袴、天国で着てね。ほら、みんなと一緒にに成人式。震災で亡き娘の遺影抱いて		0	0	0	1
1997/1/16	毎日新聞	朝刊	愛することを学びました。亡き親へ成人の誓い		0	0	0	1
1997/1/16	毎日新聞	朝刊	大震災から2年。響け鎮魂の太鼓。「希望」託し高槻で		0	0	0	1
1997/1/16	毎日新聞	朝刊	阪神大震災から2年。増える親子の心の摩擦		0	0	1	0
1997/1/16	読売新聞	夕刊	震災死、姉の形見のバイオリン。妹2人「いつか追悼演奏を」。三女猛レッスン。ピアノの二女「命の尊さ訴える」		0	0	0	1
1997/1/16	読売新聞	夕刊	被災者の姿伝えたい。豪の音楽家、童話作り		0	0	0	1
1997/1/16	読売新聞	夕刊	人の輪育て、復興の力に。心に働きかける彫刻と緑。建築家 安藤忠雄さん		0	0	1	0
1997/1/16	毎日新聞	夕刊	仮説の連帯感いつまでも。高齢者用共同住宅、兵庫県が100戸増設		0	1	0	0
1997/1/16	毎日新聞	夕刊	お年寄り”同居”で助け合い。主婦らが「グループホーム」。ボランティアの世話も受け		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	阪神大震災きょう2年。仮設になお3万8千世帯		0	1	0	0
1997/1/17	読売新聞	朝刊	地震免責で新証拠		0	1	0	0
1997/1/17	読売新聞	朝刊	パパと強く生きよう。亡き妻が守った息子		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	「孫のあす考える」60歳超えて子育て奮闘		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	息子の夢 母が受け継ぐ。友の綴る思い出胸に		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	鎮魂の灯6425本		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	大阪の被災地忘れないで。再建の道厳しく。仮設になお837世帯		0	1	0	0
1997/1/17	読売新聞	朝刊	着工めど立たぬ再開発。神戸・大正筋商店街は・・・		0	1	0	0
1997/1/17	読売新聞	朝刊	大震災とくらし。助けられた地域のために。起業家目指し仕事以外に仲間の輪		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	「阪神・淡路大震災犠牲者三回忌法要」に寄せて。今も息づく仏の心と力を大災害に続く混乱の中で見た		0	0	1	0

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1997/1/17	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。取り残される弱者		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	地震観測・研究に山積み課題		0	0	1	0
1997/1/17	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。地元経済 足踏み感。 復興格差くっきり。観光PR 奏功、明る さ		0	1	0	0
1997/1/17	読売新聞	朝刊	各企業の危機管理		0	1	0	0
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	忘れまい その命 あの惨事		0	0	0	1
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	撤去の仮設に”命”再び		0	1	0	0
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	生きてきた このガレキから		0	0	0	1
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	失われた街角。脳裏の地図「いつか再生」。 全盲の夫婦、人々の触れ合い力に		0	0	0	1
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	なお遠い わが家再建。3地区で難航 震災復興計画		0	1	0	0
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	後世へのメッセージ。曲った鉄棒と焼け た皿。廃材によるオブジェ展		0	0	0	1
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	阪神大震災まる2年。格差目立つ被災地 経済		0	1	0	0
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	阪神大震災から2年。「教訓」生かされ たのか。ボランティア頼み今も。求めら れる地域ケア		0	1	0	0
1997/1/17	毎日新聞	特集	ひとつの屋根に住もう		0	0	0	1
1997/1/17	毎日新聞	特集	子どもだって・・・。勇気や優しさ 少 しでも分けてあげたい。		0	0	0	1
1997/1/17	毎日新聞	特集	根付くボランティア。自己満足しただけ じゃないのかー悩みはあったけど・・・		0	0	0	1
1997/1/17	毎日新聞	特集	息長い救援不可欠。弱きものに負担集中。 広瀬弘忠（災害心理学）・小田義彦（社 会心理学）・広井脩（災害社会学）		0	0	1	0
1997/1/17	毎日新聞	特集	進む経済復興。消えぬ つめ跡		0	1	0	0
1997/1/17	毎日新聞	特集	鎮魂の朝。笑顔。仲間。希望。合掌。和 み		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	復興決意新た。阪神大震災から2年。教 訓伝え残そう。暮らし再生、課題なお山 積み。		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	復興決意新た。阪神大震災から2年。被 災各地で追悼式。「自由の鐘」に黙とう。		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	自主防災組織を4年計画で整備		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	鎮魂・・・5時46分。悲しみ、悔い 今 でも。市場で教会で深い祈り		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	3年目へ刻む遺志。父の誇り 交番勤務 に。倒壊殉職乗り越え		0	0	0	1

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1997/1/17	読売新聞	夕刊	3年目へ刻む遺志。心で作る母の味。和菓子店再建。		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	被災地に演奏の喜びを。「励ましのコンサート」3回目		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	震災から2年の神戸。未来都市ふう仕立てへ。記憶の継続と風化のまざままで（中井久夫）		0	0	1	0
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。長男亡くした傷心いやす		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。放浪2年「ゴン（猫）」戻る		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。連帯から愛二人三脚		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。仮設で世話役信頼はぐくみ		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。猛火止めた小枝に若葉		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。学校で力強く。阪神大震災から2年。思い出の曲天国へ届け		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。学校で力強く。阪神大震災から2年。心の＜避難所＞生き生きと		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。学校で力強く。阪神大震災から2年。消火栓などチェック		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。学校で力強く。阪神大震災から2年。被災者から聞き取り		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	忘れない 誓う朝		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	時止まったまま・・・追悼式。大震災2年。復興の町並み傍らに。遺族「頑張るしかない」		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	20年目の結婚記念日目前に。失った妻を生涯思い頑張ります		0	0	0	1
1997/1/17	毎日新聞	夕刊	ともす希望 祈りの朝。阪神大震災2年。泣き崩れて地に伏す人も。胸に刻む午前5時46分		0	0	0	1
1997/1/17	毎日新聞	夕刊	大震災2年 復興祈り続ける。暮らし取り戻すまで。愛児の面影、地蔵に写し。全壊自宅、再建誓う		0	0	0	1
1997/1/17	毎日新聞	夕刊	鎮魂の鐘鳴り響き		0	0	0	1
1997/1/17	読売新聞	特集	復興2年 光と影		0	0	0	1

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1997/ 1 /17	読売新聞	特集	不安・焦燥 明日見えず		0	0	0	1
1997/ 1 /17	読売新聞	特集	厳冬の仮設 悲痛な叫び		0	0	0	1
1997/ 1 /17	読売新聞	特集	絆求める疎開被災者		0	0	0	1
1997/ 1 /17	読売新聞	特集	復旧から復興へ。震災データベース		0	0	1	0
1997/ 1 /17	読売新聞	特集	活気よみがえる震災の街。復興住宅メッ セ着々と成果 座談会		0	0	1	0
1997/ 1 /17	読売新聞	特集	地場産業は正念場		0	1	0	0
1997/ 1 /17	読売新聞	特集	街づくりは住民主導		0	0	0	1
1997/ 1 /17	読売新聞	特集	三宮、再生へ悩み深し		0	1	0	0
1997/ 1 /17	読売新聞	特集	「安心して住める街を」。被災地に防災の 誓い。あの日を忘れない 1995. 1. 17		0	0	0	1
1997/ 1 /18	読売新聞	朝刊	「あの街に帰る日夢見て」		0	0	0	1
1997/ 1 /18	読売新聞	朝刊	被災地ガンバ！！Ｊリーガーの夢かなっ た。逆境乗り越え。仮設教室で狭い校庭。 練習場探し転々		0	0	0	1
1997/ 1 /18	読売新聞	朝刊	三宮に仮設に希望の太鼓		0	0	0	1
1997/ 1 /18	読売新聞	朝刊	阪神大震災から２年。仮設の冬 きずな 熱く。		0	0	0	1
1997/ 1 /18	読売新聞	朝刊	阪神大震災から２年。防災、復興 思い 切実。＜あの日＞胸に各地で訓練		0	0	0	1
1997/ 1 /18	読売新聞	朝刊	仲間の旅立ち見届けたい。がんと闘い 「命ある限り」。淀川の仮設名誉自治会長 奮闘		0	0	0	1
1997/ 1 /18	読売新聞	朝刊	大震災人とくらし。仮設”命綱役”の後 任は。迫る引っ越し、自治会引き継ぎ難 航		0	0	0	1
1997/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	阪神大震災。住宅融資、期限後も実施。 建築、大蔵 建築制限の被災者対象		0	1	0	0
1997/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	響け３年目の勇気。国内外280ヶ所鎮魂 の太鼓		0	0	0	1
1997/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	またも「地震免責」争点に。地震直後に 商品盗難。三宮の宝石店「保険金払え」 と提訴		0	1	0	0
1997/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	希望の一步。真の復興に向け。西宮の森 貝地区。区画整理で起工式		0	1	0	0
1997/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	「医師の姿見て志望」		0	0	0	1
1997/ 1 /18	毎日新聞	朝刊	失われた街角。伝来の土地「売るしか・・・」。 69歳独居女性、再建を断念。区画整理が 追い打ち		0	0	0	1

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被害情報	生活再建 情報	調査やシン ポジウムの 報告・学識 者の意見	被災地の状 況（被災者 の暮らし）
1997/1/18	毎日新聞	朝刊	怖かった阪神淡路の大震災 大人になっ ても忘れない		0	0	0	1
1997/1/18	毎日新聞	朝刊	ため息、涙、なお。府内仮設1476世帯。 生活再建 道遠く		0	1	0	0
				合計	0	21	20	92
				%	0 %	15.79%	15.04%	69.17%

附録４ 発生直後の震災関連記事の見出し（「被災者の暮らし」のみ）

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被災地の状況（被災者の暮らし）	試練（悲しみ/苦しみ）	希望（再生/新たな旅立ち）
1995/1/18	読売新聞	朝刊	家も家族も失った 避難住民放心の夜		1	1	0
1995/1/18	読売新聞	朝刊	烈震地獄 恐怖の住民。肉親呼ぶ声余震非情		1	1	0
1995/1/18	毎日新聞	夕刊	飲まず食わず 募る不安。水、電気・・・いつ復旧		1	1	0
1995/1/18	読売新聞	夕刊	絶望の朝 動き出す。住民力合わせ救出作業		1	1	0
1995/1/19	毎日新聞	朝刊	悲しみ耐え、生きる		1	1	1
1995/1/19	毎日新聞	朝刊	絶望のふち 街を出る。ミルクの水もなく		1	1	0
1995/1/19	毎日新聞	夕刊	再開の朝 でも友は・・・。尼崎で小、中校再開		1	1	0
1995/1/19	読売新聞	夕刊	息子よ、友よ、無事か。廃墟の街に張り紙、伝言		1	0	0
1995/1/20	毎日新聞	朝刊	飢え 渇水に耐え		1	1	0
1995/1/20	毎日新聞	朝刊	「麻酔なしで傷縫った」		1	1	0
1995/1/20	毎日新聞	朝刊	9歳、58時間ぶりに救出		1	1	0
1995/1/20	毎日新聞	夕刊	被災住民 買い出しの波。飛ぶデマに自警団		1	1	0
1995/1/20	毎日新聞	夕刊	悪いな 大きな家に住めんかった。そんなことないよあんだ。生き埋め夫婦 最後の会話。救出後妻死亡		1	1	0
1995/1/20	読売新聞	夕刊	神戸から”脱出” 一番船。大阪へ向け家族ら400人		1	1	0
1995/1/21	毎日新聞	朝刊	静けさ、いつ・・・。阪神大震災。なぜこんな。無事だよ。		1	1	0
1995/1/21	毎日新聞	朝刊	非情の荒野 小さな葬儀点々。祈りの街・長田。「助けられず、ごめん」		1	1	0
1995/1/21	毎日新聞	夕刊	歩け歩け 苦闘の買い出し		1	1	0
1995/1/21	毎日新聞	夕刊	ママさん社長も下敷死亡。赤ちゃん抱きしめて。抱かせて納棺		1	1	0
1995/1/21	毎日新聞	夕刊	小さな笑顔 大きな力。震災下の子供		1	1	1
				合計	19	18	2
				%		94.74%	10.53%
						相関係数	0.08

附録5 発生から1ヵ月後の震災関連記事の見出し（「被災者の暮らし」のみ）

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被災地の状況（被災者の暮らし）	試練（悲しみ/苦しみ）	希望（再生/新たな旅立ち）
1995/2/16	神戸新聞	朝刊	町工場。下町の元気ここから。口をへの字にあきらめへん		1	1	1
1995/2/16	神戸新聞	朝刊	M7.2直撃・・・悲痛な叫び。新たな街へ生活の息吹		1	1	1
1995/2/16	神戸新聞	朝刊	被災地の栄養士ら奮闘。野菜不足で工夫凝らす		1	1	1
1995/2/16	神戸新聞	朝刊	震災と産婦人科医。痛感した情報不足。やっと診察を再開へ		1	1	0
1995/2/16	神戸新聞	朝刊	小さな目に「地震」鮮烈。児童が「あの日」を作文に		1	1	0
1995/2/16	神戸新聞	朝刊	光走り大地が波打った。あの笑顔 胸に生きてる		1	1	1
1995/2/16	神戸新聞	朝刊	あすに向かって。力合わせ、再建のつち音。和らぐ。出直し。仕事歌。助け合い。手作り。祈り。再開		1	1	1
1995/2/16	神戸新聞	夕刊	大地震1. 17。その時県警は。庁舎崩壊/110番殺到/液状化の泥。混乱下懸命に職務		1	1	0
1995/2/16	神戸新聞	夕刊	避難所で1歳のバースデー。一輝ちゃん。歩いたよ		1	1	1
1995/2/16	神戸新聞	夕刊	復活、芦屋・津知町の記録。全壊の町、広がる結束。テント村。この地で暮らしたい		1	1	1
1995/2/17	神戸新聞	朝刊	正午に黙とうを		1	1	0
1995/2/17	神戸新聞	朝刊	揺れる心に春が来た。合格通知。負けたくない・・・夢へ一歩		1	1	1
1995/2/17	神戸新聞	夕刊	安らかに。復興へ決意新た		1	1	1
1995/2/17	神戸新聞	夕刊	復活、芦屋・津知町の記録。転居。残る思いよぎる恐怖		1	1	0
1995/2/17	神戸新聞	夕刊	公立高推薦入試の合格発表。被災生徒にも”春”朗報		1	1	1
1995/2/17	神戸新聞	夕刊	被災地包む深い祈り。1・17胸に誓う再起。阪神大震災1ヵ月		1	1	1
1995/2/17	読売新聞	夕刊	再生誓う。ガレキの街 黙とう。阪神大震災1ヵ月。21万人なお避難所に。		1	1	1
1995/2/17	読売新聞	夕刊	鎮魂の鐘 鳴り響く中		1	1	0
1995/2/17	読売新聞	夕刊	安藤さん一家の震災日記。靴作り始まった。二男も野球の練習開始。		1	1	1
1995/2/17	読売新聞	夕刊	＜あの瞬間＞忘れない。復興へ歩み力強く。震災1ヵ月 それぞれの午前5時46分。		1	1	0
1995/2/17	読売新聞	夕刊	コジロー、元気で頑張れ。父の働く工場倒れ静岡へ		1	1	1
1995/2/17	読売新聞	夕刊	思いやる心育つ。ボランティアの姿に接し		1	1	1
1995/2/17	読売新聞	夕刊	被災者逆で耐震住宅PR。倒壊家屋と対比。一部メーカー、パンフ配布		1	0	0
1995/2/18	読売新聞	朝刊	被災地に”春”を呼べ。「選抜」開催。ひたむきさ励みに。甲子園周辺「常識ある行動を」		1	1	1



日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被災地の状況（被災者の暮らし）	試練（悲しみ/苦しみ）	希望（再生/新たな旅立ち）
1995/2/18	読売新聞	夕刊	震災ゴミに舞う		1	0	0
1995/2/18	読売新聞	夕刊	「六甲の湧水」震災異変。3－6倍に増えた		1	0	0
1995/2/18	読売新聞	夕刊	バブル崩壊・・・ガラ空きだった。億ション入居の動き。被災企業など次々。JR 芦屋駅前		1	0	0
1995/2/18	読売新聞	夕刊	シネマに情熱・・・先輩の遺志継ぐ。神戸大「映研」部室から無傷のフィルム300本		1	1	1
1995/2/19	読売新聞	朝刊	何もできなかった。恨まないで・・・。長田で合同葬儀		1	1	0
1995/2/19	読売新聞	朝刊	ボランティア学生に単位。日本文理大		1	0	0
1995/2/19	読売新聞	朝刊	神戸市立全校園24日までに再開		1	0	0
1995/2/19	読売新聞	朝刊	傷心いやす大正琴「あの怖さ忘れられる」		1	1	0
1995/2/19	読売新聞	朝刊	署長「市民救出が先だ」公私のはざまで揺れ		1	1	0
				合計	33	27	17
				%		81.82%	51.52%
						相関係数	0.49

附録6 発生から2年後の震災関連記事の見出し（「被災者の暮らし」のみ）

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被災地の状況（被災者の暮らし）	試練（悲しみ/苦しみ）	希望（再生/新たな旅立ち）
1997/1/18	読売新聞	朝刊	「あの街に帰る日夢見て」		1	1	0
1997/1/18	読売新聞	朝刊	被災地ガンバ！！Ｊリーガーの夢になった。逆境乗り越え。仮設教室で狭い校庭。練習場探し転々		1	1	1
1997/1/18	読売新聞	朝刊	三宮に仮設に希望の太鼓		1	1	1
1997/1/18	読売新聞	朝刊	阪神大震災から2年。仮設の冬 きずな熱く。		1	1	1
1997/1/18	読売新聞	朝刊	阪神大震災から2年。防災、復興 思い切実。＜あの日＞胸に各地で訓練		1	1	0
1997/1/18	読売新聞	朝刊	仲間の旅立ち見届けたい。がんと闘い「命ある限り」。淀川の仮設名誉自治会長奮闘		1	1	1
1997/1/18	読売新聞	朝刊	大震災人とくらし。仮設“命綱役”の後任は。迫る引っ越し、自治会引き継ぎ難航		1	1	0
1997/1/18	毎日新聞	朝刊	響け3年目の勇気。国内外280ヶ所鎮魂の太鼓		1	1	1
1997/1/18	毎日新聞	朝刊	「医師の姿見て志望」		1	1	1
1997/1/18	毎日新聞	朝刊	失われた街角。伝来の土地「売るしか・・・」。69歳独居女性、再建を断念。区画整理が追い打ち		1	1	0
1997/1/18	毎日新聞	朝刊	怖かった阪神淡路の大震災 大人になっても忘れない		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	夕刊	復興決意新た。阪神大震災から2年。教訓伝え残そう。暮らし再生、課題なお山積み。		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	夕刊	復興決意新た。阪神大震災から2年。被災各地で追悼式。「自由の鐘」に黙とう。		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	夕刊	自主防災組織を4年計画で整備		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	夕刊	鎮魂・・・5時46分。悲しみ、悔い 今でも。市場で教会で深い祈り		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	夕刊	3年目へ刻む遺志。父の誇り 交番勤務に。倒壊殉職乗り越え		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	3年目へ刻む遺志。心で作る母の味。和菓子店再建。		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	被災地に演奏の喜びを。「励ましのコンサート」3回目		1	0	0
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。長男亡くした傷心いやす		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。放浪2年「ゴン（猫）」戻る		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。連帯から愛二人三脚		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。仮設で世話役信頼はぐくみ		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。希望のめばえ。阪神大震災から2年。猛火止めた小枝に若葉		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。学校で力強く。阪神大震災から2年。思い出の曲天国へ届け		1	1	1

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被災地の状況（被災者の暮らし）	試練（悲しみ/苦しみ）	希望（再生/新たな旅立ち）
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。学校で力強く。阪神大震災から2年。心の＜避難所＞生き生きと		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。学校で力強く。阪神大震災から2年。消火栓などチェック		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	再生へ確かな歩み 命の重さ知った。学校で力強く。阪神大震災から2年。被災者から聞き取り		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	忘れない 誓う朝		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	夕刊	時止まったまま・・・追悼式。大震災2年。復興の町並み傍らに。遺族「頑張るしかない」		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	夕刊	20年目の結婚記念日目前に。失った妻を生涯思い頑張ります		1	1	1
1997/1/17	毎日新聞	夕刊	ともす希望 祈りの朝。阪神大震災2年。泣き崩れて地に伏す人も。胸に刻む午前5時46分		1	1	1
1997/1/17	毎日新聞	夕刊	大震災2年 復興祈り続ける。暮らし取り戻すまで。愛児の面影、地蔵に写し。全壊自宅、再建誓う		1	1	1
1997/1/17	毎日新聞	夕刊	鎮魂の鐘鳴り響き		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	特集	復興2年 光と影		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	特集	不安・焦燥 明日見えず		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	特集	厳冬の仮設 悲痛な叫び		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	特集	絆求める疎開被災者		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	特集	街づくりは住民主導		1	0	0
1997/1/17	読売新聞	特集	「安心して住める街を」。被災地に防災の誓い。あの日を忘れない 1995. 1. 17		1	1	0
1997/1/17	毎日新聞	特集	ひとつの屋根に住もう		1	1	1
1997/1/17	毎日新聞	特集	子どもだって……。勇気や優しさ 少しでも分けてあげたい。		1	1	1
1997/1/17	毎日新聞	特集	根付くボランティア。自己満足しただけじゃないのかー悩みはあったけど……		1	0	0
1997/1/17	毎日新聞	特集	鎮魂の朝。笑顔。仲間。希望。合掌。和み		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	パパと強く生きよう。亡き妻が守った息子		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	「孫のあす考える」60歳超えて子育て奮闘		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	息子の夢 母が受け継ぐ。友の綴る思い出胸に		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	鎮魂の灯6425本		1	1	0
1997/1/17	読売新聞	朝刊	大震災とくらし。助けられた地域のために。起業家目指し仕事以外に仲間の輪		1	1	1
1997/1/17	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。取り残される弱者		1	1	0

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被災地の状況（被災者の暮らし）	試練（悲しみ/苦しみ）	希望（再生/新たな旅立ち）
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	忘れまい その命 あの惨事		1	1	0
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	生きてきた このガレキから		1	1	1
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	失われた街角。脳裏の地図「いつか再生」。全盲の夫婦、人々の触れ合いに		1	1	1
1997/1/17	毎日新聞	朝刊	後世へのメッセージ。曲った鉄棒と焼けた皿。廃材によるオブジェ展		1	0	0
1997/1/16	読売新聞	夕刊	震災死、姉の形見のバイオリン。妹2人「いつか追悼演奏を」。三女猛レッスン。ピアノの二女「命の尊さ訴える」		1	1	1
1997/1/16	読売新聞	夕刊	被災者の姿伝えたい。豪の音楽家、童話作り		1	1	1
1997/1/16	毎日新聞	夕刊	お年寄り”同居”で助け合い。主婦らが「グループホーム」。ボランティアの世話も受け		1	1	1
1997/1/16	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。巣立つ、あの日の1年生。「克己」胸に/勇気の種		1	1	1
1997/1/16	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。巣立つ、あの日の1年生。教え子の死、語り継ぐ		1	1	1
1997/1/16	読売新聞	朝刊	鎮魂と防災の誓い。震災復興へ、はばたく。念願かなえて消防士。遺影抱く母の姿も式典に		1	1	1
1997/1/16	読売新聞	朝刊	大震災人とくらし。店開店・・・でも遠い客足。市民活動で弾み、店主にやる気戻る		1	1	1
1997/1/16	毎日新聞	朝刊	この袴、天国で着てね。ほら、みんなと一緒に成人式。震災で亡き娘の遺影抱いて		1	1	1
1997/1/16	毎日新聞	朝刊	愛することを学びました。亡き親へ成人の誓い		1	1	1
1997/1/16	毎日新聞	朝刊	大震災から2年。響け鎮魂の太鼓。「希望」託し高槻で		1	1	1
1997/1/15	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。地域つなぐ心の拠り所。教会が生まれ変わる。人のために・・・目覚めて		1	1	1
1997/1/15	読売新聞	朝刊	ボランティア参加。しぶる司法研修所。振り切り被災地へ。元修習生、やり取りを手記に		1	0	0
1997/1/15	読売新聞	朝刊	記憶を風化させない。震災手記を発刊。吹田の9団体		1	0	0
1997/1/15	読売新聞	朝刊	大震災人とくらし。新たな”自分”の旅立ち。生き延びた幸運、人生観が一変		1	1	1
1997/1/14	読売新聞	夕刊	震災時高3・・・はたちの門出。母を奪ったタンスから反物取り出し振り袖に。		1	1	1
1997/1/14	読売新聞	夕刊	震災時高3・・・はたちの門出。避難の車中で受験勉強3日間。		1	1	1
1997/1/14	読売新聞	夕刊	震災時高3・・・はたちの門出。福祉に情熱。級友の死。今も心の中に		1	1	1
1997/1/14	毎日新聞	夕刊	大震災で全壊の西宮「阪神市場」再建断念、解散決める。40余年 ご愛顧ありがとうございました		1	1	0
1997/1/14	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。金看板はトアロードに。ジャズの息吹もう一度。華僑の仕立店、再建へ愛着。		1	1	1
1997/1/14	読売新聞	朝刊	阪神大震災。高速倒壊、公団を提訴へ。犠牲者の母親9200万円賠償求め		1	1	0
1997/1/14	読売新聞	朝刊	「被災者追悼歌」CDで歌い継ぐ。「天国で聴いていて」。臼井教諭が作詞・作曲。弟亡くした森さん歌う		1	1	1

日 付	紙 名	朝/夕	見 出 し		被災地の状況（被災者の暮らし）	試練（悲しみ/苦しみ）	希望（再生/新たな旅立ち）
1997/ 1 /14	毎日新聞	朝刊	忘れ得ぬ” 幸せの城” 。自宅崩壊、再建資金も” 詐取” され		1	1	0
1997/ 1 /13	読売新聞	夕刊	大震災で倒壊、阪神間の下宿は今。大家さん、いえぬ傷。無防備すぎた/再建決心つかぬ/思い出したくない		1	1	0
1997/ 1 /13	毎日新聞	夕刊	震災の阪神高速倒壊で死亡。公団に賠償求め提訴へ		1	1	0
1997/ 1 /13	毎日新聞	夕刊	阪神高速倒壊、損害賠償提訴。理不尽な死、繰り返さぬために。真相究明、息子の供養		1	1	0
1997/ 1 /13	毎日新聞	夕刊	震災で被災の障害者を支援。「お声拝借テープ」完成。関西の芸能人らが朗読		1	0	0
1997/ 1 /13	読売新聞	朝刊	後輩救えなかった無念越え。古里の自然と生きる		1	1	1
1997/ 1 /13	読売新聞	朝刊	遺児のこぶしの重み忘れず。歩み見守り続けたい		1	1	1
1997/ 1 /13	毎日新聞	朝刊	夫の遺産4000万円国庫へ。一家3人震災死。30年間同居の妻の弟、無情、相続人になれず。		1	1	1
1997/ 1 /12	読売新聞	朝刊	心を癒すふれあい。30年の「夫婦史」胸に		1	1	1
1997/ 1 /12	読売新聞	朝刊	心を癒すふれあい。先生、またピアノ教えて		1	1	1
1997/ 1 /12	毎日新聞	朝刊	” 勇気の使者” 2000人。被災地の球児ら、油回収りレー		1	1	1
1997/ 1 /11	読売新聞	夕刊	震災2年ー神戸市・中野南区からの旅立ち。テント村で生きた証、胸に。		1	1	1
1997/ 1 /11	毎日新聞	夕刊	いま、被災地で。災害救助犬。50頭がスタンバイ		1	1	1
1997/ 1 /11	毎日新聞	夕刊	いま、被災地で。ゴスペル歌手、森祐理さん。「しあわせ運べるように」		1	1	1
1997/ 1 /11	毎日新聞	夕刊	いま、被災地で。大阪ボランティア。求む勤労者パワー。信頼度高いと期待		1	1	1
1997/ 1 /11	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。難病の娘とおしむ。出産控え入院、母と兄救った		1	1	1
1997/ 1 /11	読売新聞	朝刊	阪神大震災2年。血縁超えたきずな。		1	1	1
1997/ 1 /11	読売新聞	朝刊	震災で被害の特養ホーム。善意に支えられ開園へ		1	1	1
				合計	92	85	60
				%		92.39%	65.22%
						相関係数	0.39